

まえさわ



品定めをする客に対応する児童

11月25日、前沢小学校5年生の児童45人による「あきんど体験」が三日町商店街の空き店舗を活用して行なわれ、保護者をはじめ多くの買い物客が訪れました。同校が総合学習の一環として商店街と連携して毎年行っているもので、店作りから仕入れ、販売までを実際の商店で研修した児童自らが行ないました。ハッピー姿の児童は、魚や肉、野菜、めん類などを販売し、元気いっぱいの呼び込みや丁寧な接客で見事な「あきんど」ぶりを発揮。千葉拓人くん＝前沢区向田一丁目＝は「声を出すことを頑張った。買ってもらううれしかった」と完売に笑顔を見せていました。

小学生が「あきんど」に変身
元気いっぱいの声で商売繁盛

まちの話題



ボールと一緒に友情も交換

市内小学生がドッジボールで交流



公式ルールで行われた市誕生記念ドッジボール大会

奥州市誕生記念ドッジボール大会実行委員会（門脇政幸会長）主催のドッジボール大会は11月25日、水沢総合体育館（Zアリーナ）で行われました。市内小学生の親睦交流と一体感の醸成、日本ドッジボール協会の公式ルールの普及を目的に、市内のドッジボールスポーツ少年団の父母会が実行委員会を組織しました。

大会には、市内各区の13校から25チームが参加して熱戦を繰り広げました。初めはごこちなかった選手たちも、試合を重ねてルールを理解するほどには、はつらつとしたプレーを展開。試合の状況が一目で分かることから、応援に訪れた家族らも盛んに声援を送っていました。

実力が伯仲したチームがひしめく中、攻守のまとまりに勝った水沢南小学校Bチームが、見事優勝の栄冠を手にしました。

胆沢農業の礎築いた先覚者

粟野善知の胸像完成を祝う



関係者らにより除幕された胸像

11月19日、胆沢区南都田で粟野善知翁胸像建立記念式典が開催されました。

南都田村長だった粟野善知は明治30年代、数々の先進的な事業に取り組むとともに、当時国内でも例を見ない大規模な耕地整理を遂行し、農業基盤の基礎を築き上げました。昭和27年にその偉業をたたえる石碑が宇南田地内に建てられましたが、地元住民にとって同氏の胸像の建立も長年の悲願となっていました。

胸像は全高2.5メートル、うち胸像部分が0.5メートルの青銅製。式典には、粟野氏の親族や関係者、地元住民ら約70人が出席し、胸像の完成を祝いました。

いさわ

日本バレエ界先駆者の軌跡

ささらホールで小牧正英追悼展

日本で本格的なバレエを始めた先駆者で、ことし9月に亡くなった小牧正英さんの追悼展（NPO法人・いわてルネッサンスアカデミア主催）は、10月24日から11月26日まで江刺体育文化会館で開かれました。

小牧さんは明治44年、江刺区銭町生まれ（本名・菊池榮一）。ロシアのバレエ団で活躍し昭和21年に帰国。同年の「白鳥の湖」日本初演では、自ら出演し、演出、振り付けも行いました。小牧バレエ団創設後は、数多くの作品の国内初演や後進育成を手掛けました。

追悼展では、日本バレエ草創期の貴重な写真などを展示し、郷土の偉人の功績をたたえていました。



昭和20年代の貴重な写真などを展示

えさし

湖底に沈んだ文化を伝える

増沢塗の特別展を開催



美しい光沢を放つ漆器が並ぶ会場

衣川歴史ふれあい館では、11月30日から12月3日まで「増沢塗」展が開かれました。増沢塗は、現在ダムの湖底に沈んでいる旧衣川村増沢地区で昭和31年まで作られていた漆器。この文化を伝え残そうと活動しているころもがわ漆の会（高橋幸雄会長、会員11人）が企画したものです。毎週水曜日に同館で開催している教室の受講者の作品を中心に、同会の指導者である及川守男さん、菅原民生さんの作品も展示されました。

会場を訪れた佐藤一さん＝前沢区白山字彼岸田＝は「斬新な作品が多い。何よりも根気が素晴らしい」とため息をもらっていました。

ころもがわ

児童の安全を守る実験開始

電子メールで登下校の時間を通知

常盤小学校（高橋和子校長、児童744人）で「公的個人認証を活用した登下校通知システム」の実証実験が行われています。これは子どもの登下校の時刻を保護者のパソコンや携帯電話にメールで配信するものです。配信を見ることで保護者や学校は子どもたちの登下校の状況を確認でき、異常事態があった場合に迅速な対応ができます。

このシステムは、住民基本台帳カードの公的個人認証と子どもたちそれぞれの手のひらの静脈認証を合わせたもので、このタイプの認証は全国で初の事例です。実験終了後は保護者へアンケート調整をし、継続利用を検討していきます。

手のひらの静脈を読み取る機器で個人を確認

みずさわ